

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		事業開始年度		平成17年度～		根拠法令・規程等	河川法
総合計画	大項目	基本目標	O1	安全で快適に暮らせるまちづくり			
	中項目	基本施策	O3	災害に強いまちづくり			
	小項目	施策	O1	河川改修・砂防施設整備			
事務事業名		O3	河川維持管理事業		担当課(室)	都市整備課	
					職・氏名	土木係長・梶藤 勲	
					電話	0869-64-1835	

事業の実施		対象(誰・何に対して)	河川の浸水区域で生活を営む住民、浸水区域内の道路・線路を利用する住民。
目的(何のために)		目的(何のために)	台風、大雨等での河川増水のための決壊、氾濫による浸水被害を防ぐ。
行政活動(どのような方法で)		行政活動(どのような方法で)	河川の既設構造物で経年変化等により不具合が出ているところを修繕する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)		事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	河川維持修繕の必要な箇所への不適切な対応による事故の発生を防止する

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	維持修繕箇所(工費)	箇所	18	9	15
	維持修繕箇所(需要費)	箇所	22	21	79

実績	直接事業費	必要人員	人件費	千円	11,673	7,893	23,156
	事業費	事業費	計	千円	19,483	11,095	24,781
経費	国	県	支出金	千円			
	受	益	者	負担			
財源	総	入	金	千円			
	市	債	債				
一	そ	他	( )				
	一	般	財	源	19,483	11,095	24,781
受		益	者	負	担	比	率
				%			

結果指標①	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	結果指標量	説明	40	30	81
	対前年比	%	—	75.0%	270.0%
	活動コスト	円	19,483,000	11,095,000	24,781,000
	単位当たりコスト	円	487,075	369,833	305,938
結果指標②	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	結果指標量	説明	—	—	—
	対前年比	%	—	—	—
	活動コスト	円	—	—	—
	単位当たりコスト	円	—	—	—

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
	目標値(A)	0	0	0	0
河川の維持管理不足による事故発生件数	実績値(B)	0	0	0	到達目標年度
	達成率(B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	毎年
成果指標設定の考え方・式や説明					
河川の維持管理不測による事故発生件数が「0」件の場合の達成率は「100%」とし、1件でも事故が発生した場合は「0%」とする。					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E>	A
市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	説明	河川・水路等の維持修繕は事故を防ぐ物であり、幾多の要望書が提出されている状況である。	判定理由・課題認識	本市が管理する河川及び排水路の維持管理事業であり、市が関与することは妥当である。
	効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E>	B
有効性の評価	目的達成度	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E>	B
	説明		河川修繕効果は大きく、決壊等による被害は起こっていないが、点検等を強化する必要がある。		

平成21年度の状況		目標値	結果指標量①	80箇所	結果指標量②	成果指標量	0%
状況	説明	状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合
				○			
		説明	修繕内容を十分精査し、安全・安心の観点から優先順位をつけて実施し、更なる事業費削減を図る必要がある。				

総合評価		評価区分<A~E>	B
維持管理予算は市財政の悪化により、削減を余儀なくされている中で、河川・水路の破損及び老朽化による維持修繕予算箇所は右肩上がりになっている状況である。 現在、当該事業においては、破損箇所を十分精査し、安全・安心の観点から優先順位をつけて実施しているが、更なる事業費削減及び事務処理機能向上を図る必要がある。			

平成22年度以降の方向性・内容		方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		説明	破損箇所を十分精査し、安全・安心の観点から優先順位をつけて実施し、更なる事業費削減を図る。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果					
	効率性	工事の一括発注	平成22年度以降	事業費削減					
	効率性	地域住民にも点検に協力して頂き点検強化を図る	平成22年度以降	災害防止					